

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 発達心理学科

回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化	発達心理	初等教育	学部計	
回答数	106	101	83	290	53	53	74	180	470
卒業生数	119	106	107	332	58	59	75	192	524
回答割合	89.1%	95.3%	77.6%	87.3%	91.4%	89.8%	98.7%	93.8%	89.7%

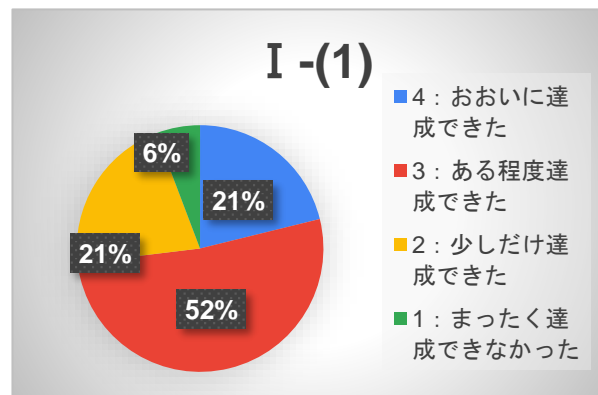
卒業生数には2020年9月卒業生、2021年3月卒業生を含む

I. 発達心理学科のディプロマ・ポリシーについて

(1) 時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	11
3：ある程度達成できた	27
2：少しだけ達成できた	11
1：まったく達成できなかった	3

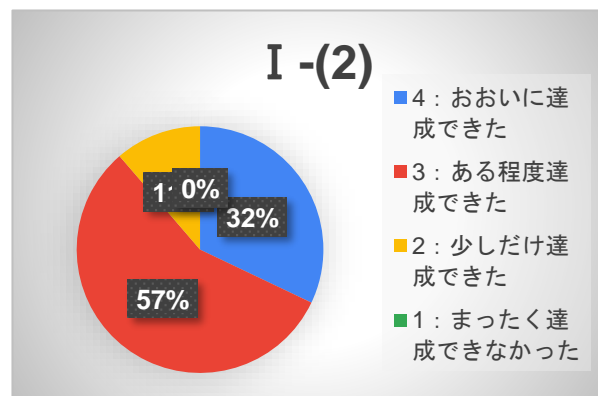
52



(2) 時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	17
3：ある程度達成できた	30
2：少しだけ達成できた	6
1：まったく達成できなかった	0

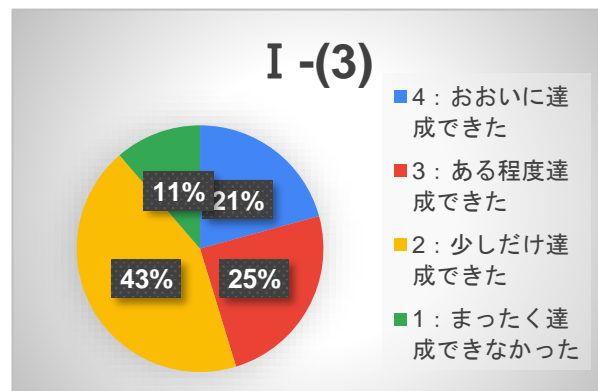
53



(3) 現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	11
3：ある程度達成できた	13
2：少しだけ達成できた	23
1：まったく達成できなかった	6

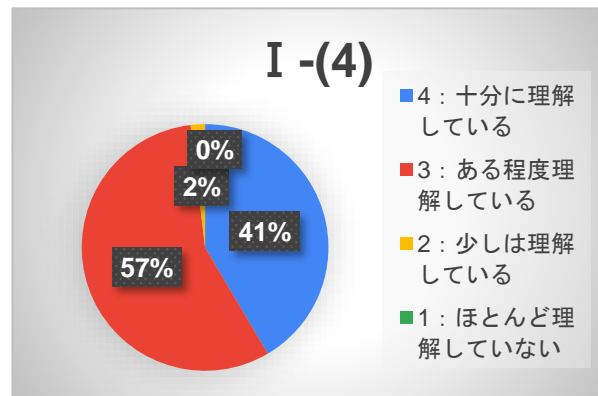
53



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 発達心理学科

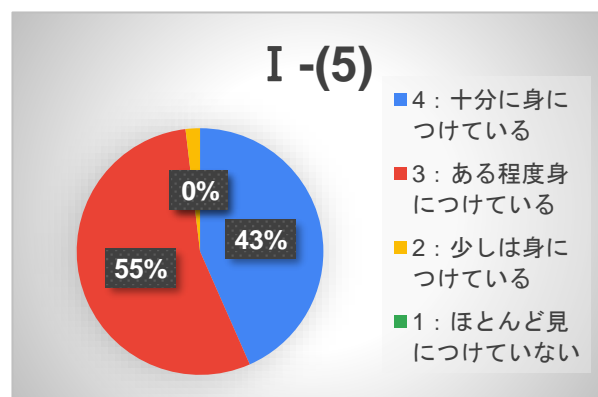
（4）胎児期から老年期にいたる生涯発達の標準形と多様性を、生物学的・社会文化的な背景とともに理解している。

4：十分に理解している	22
3：ある程度理解している	30
2：少しは理解している	1
1：ほとんど理解していない	0
53	



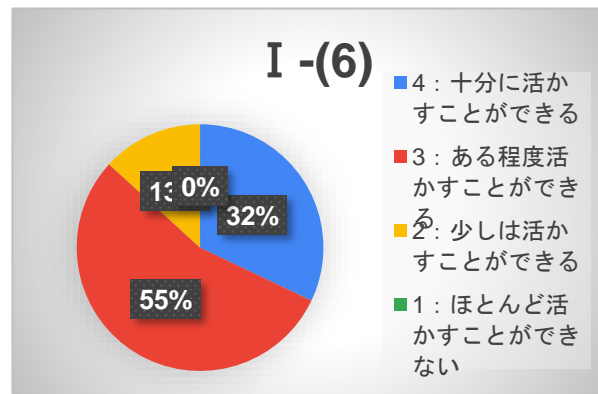
（5）人間は遺伝学的・生得的に規定されると同時に、どのような環境で育ち大人になっていくかという社会文化的文脈によっても大きく左右されるという生涯発達心理学の考え方を身につけ、人間を発達の視点から捉えることができる。

4：十分に身につけている	23
3：ある程度身につけている	29
2：少しは身につけている	1
1：ほとんど見につけていない	0
53	



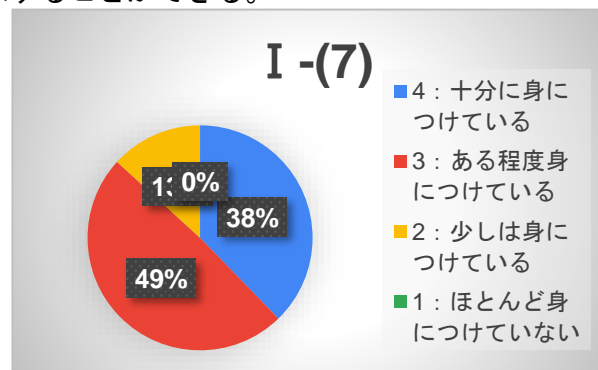
（6）人生のさまざまな時期に遭遇する発達の課題や危機を理解し、発達障害や精神疾患等の臨床的な問題とそれらへの対応に関する専門知識を、人々の心の健康の増進を図るためのスキルとして活かすことができる。

4：十分に活かすことができる	17
3：ある程度活かすことができる	29
2：少しは活かすことができる	7
1：ほとんど活かすことができない	0
53	



（7）実験や調査、観察などの心理学の基本的な方法を身につけるとともに、それを使って現代社会の発達心理学的課題を積極的に見出して探求することができる。

4：十分に身につけている	20
3：ある程度身につけている	26
2：少しは身につけている	7
1：ほとんど身につけていない	0
53	

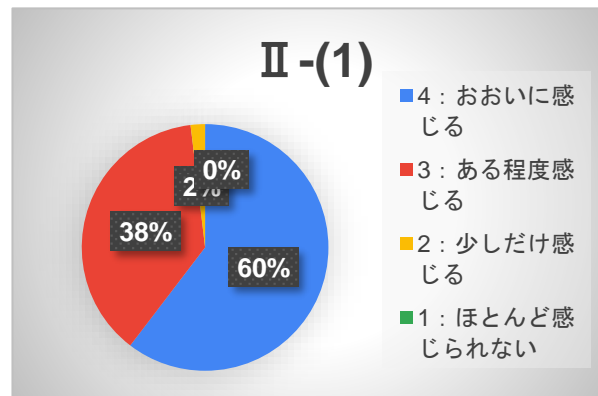


学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 発達心理学科

Ⅱ. 発達心理学科での全期間の学修を通じた成長実感と満足感について

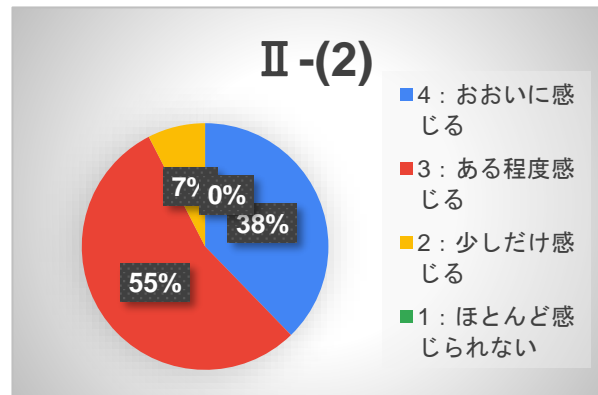
(1) 自分は人間的に成長した。

4：おおいに感じる	32
3：ある程度感じる	20
2：少しだけ感じる	1
1：ほとんど感じられない	0
53	



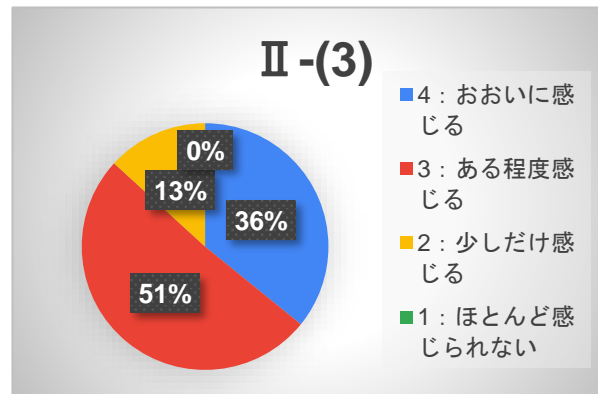
(2) 自分は学問的に成長した。

4：おおいに感じる	20
3：ある程度感じる	29
2：少しだけ感じる	4
1：ほとんど感じられない	0
53	



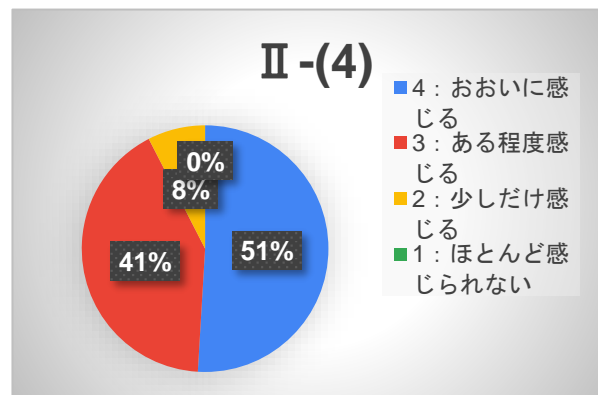
(3) 自分の学修成果に満足している。

4：おおいに感じる	19
3：ある程度感じる	27
2：少しだけ感じる	7
1：ほとんど感じられない	0
53	



(4) 自分の大学生活に満足している。

4：おおいに感じる	27
3：ある程度感じる	22
2：少しだけ感じる	4
1：ほとんど感じられない	0
53	



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 発達心理学科

2020年度卒業時アンケートに関する考察（発達心理学科）

1. 発達心理学科のディプロマ・ポリシーについて

（1）全学に共通するポリシーに関する項目について

発達心理学科のディプロマ・ポリシーの中で、全学で共通する（1）、（2）の質問については、2019年度と同様に、いずれも、「ある程度達成できた」、「おおいに達成できた」と回答した人が7割を超えていた。しかしながら、昨年度と同様、（3）の外国語学習に関する項目については、「少しだけ達成できた」とした回答が5割弱という結果であった。2019年度と同様に、外国語学習や異文化理解を促進していく必要があると考えられるが、新型コロナウイルスの影響により、異文化を理解する機会が減少している中で、いかにそうした機会を提供していくかを検討する必要があると考えられる。

（2）学科のポリシーに関する項目について

本学科の専門的学びである発達心理学の知識・考え方、心理学の方法論に関する理解については、2019年度アンケートと同様に、「ある程度達成できた」、「おおいに達成できた」と回答した人が8割を超えていた。本学科における学びは、人の生涯にわたる発達課題、そして、発達上の危機、発達障害や精神疾患等の臨床的な問題について理解を深めることに有用であったことが示唆される。卒業生が生涯発達心理学の視点から、現実の社会問題を解決していくことが期待できる。

2. 発達心理学科での全期間の学修を通じた成長実感と満足感について

2019年度卒業時アンケートと同様に、本学科での学修を通して、卒業生は人間的に成長し、学問的にも成長したと感じている者が多いことが示唆された。加えて、学修成果、大学生活いずれの満足度についても、8割を超える人が「ある程度感じる」と「おおいに感じる」と回答していた。学科として現在の取り組みを継続し、今後も学生の人間的・学問的成長に寄与できる教育を継続的に提供するとともに、「少しだけ感じる」と回答した学生の成長や満足感を向上できるような教育内容を検討していく必要があると考えられる。